会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」  （３）職業実践専門課程等の充実に向けた取組の推進①社会的評価の一層の向上のための共通的基盤整備の推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第1回共通基盤整備事業運営委員会 |
| 開催日時 | 令和3年8月2日（月）　15時00分～17時00分 |
| 場所 | 専門学校岡山情報ビジネス学院（オンライン併用） |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾  委　　　員：五十部　昌克、岡村　慎一、松田　義弘、安田　実  　　　　　（オンライン参加）  谷　昌一、山根　大助、増子　卓矢、沖　直彦、  杉浦　敦司、冨田　伸一郎、松本　晴輝 　　　　計12名  請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計13名 |
| 議題等 | 1. 自己紹介（飯塚・高岡・岡村・五十部・松田・安田・増子・谷・沖・杉浦・冨田・松本・山根） 2. 昨年度実績と今年度目標とスケジュール確認（五十部）   ・本事業は令和2年～4年の3か年計画となっている。項目は大きく3つに分かれており、1つ目は自己点検・評価の標準モデル作成、2つ目は第三者評価調査と認証モデルの作成、3つ目は人材育成で学内監査・推進者の実態調査、育成プログラム開発となっている。  ・令和2年度は自己点検・評価モデル（共通的評価基準モデル2021）を開発、自己点検調査アンケート、自己点検・評価表の調査、第三者評価調査アンケート、第三者評価実施校の実態調査ヒアリングを実施した。  ・今年度の目標は、自己点検・評価標準モデル検証および完成版開発、第三者評価に関する実態調査、第三者評価スタンダード認証モデルプロトタイプ版開発、第三者評価スタンダード認証モデルプロトタイプ版アクションリサーチ実施、学内監査・推進者育成プログラムプロトタイプ版アクションリサーチとなっている。  ・（1）の自己点検・評価標準モデルでは、昨年度プロトタイプを開発したので、今年度は会員校に調査依頼し、標準モデルの完成を目指す。担当者は谷先生。  ・（2）の第三者評価に関する実態調査では書く認証機関に聞き取り調査を行う予定。対象認証機関は、私立専門学校等評価研究機構、専門職高等教育質保証機構、JAMOTEC認証サービス、リハビリテーション教育評価機構、職業教育・キャリア教育財団を予定している。  ・実態調査の結果をもとに（3）の第三者評価スタンダード認証モデルプロトタイプ版を12月目安に開発、プロトタイプに対する評価項目を作成し（4）のアクションリサーチに反映する。  ・(2)～（4）の担当者は、山根先生と私（五十部）となっている。  ・学内監査・推進者育成プログラムプロトタイプ版アクションリサーチを実施し、プログラム開発につなげる。（2）の第三者評価に関する実態調査と同時に進める予定。担当者は松田先生。  ・スケジュールについては表のとおり。   1. 共通的評価基準モデルの検証について（五十部）   (1) 調査質問項目について  ・自己点検・評価表モデル検証シートについて、各項目が水色セルになっているのが、昨年度作成した自己点検・評価表モデル、右側の黄色セルが今年度の検証項目となる。回答方法は"エビデンス例がわかりやすいか"、"評価しやすいか"、"質の向上につながるか"、"広報・宣伝に有効か"の4項目での評価になっている。昨年度は自身の属するカテゴリーのみの回答だったが、検証は全てに回答を依頼することになるので、学校ごとに回答項目を3つに分ける。エビデンスは自校のものとするが、今回の目的は検証なので任意としたい。昨年度はGoogleフォームだったが、集計に手間がかかる面もあり、エクセルでの回収（プルダウン方式）を予定している。自己評価した上でエビデンス例の評価をしていただく。エクセルシートの他に、依頼文、回答方法の説明文を添付する。回収方法、4つの項目に関してご意見をいただきたい。  【意見等】  ・検証するための4つの項目に関してどうか。  　・エビデンスの回答はなるべく多く欲しい。回答方法はテキスト以外にHPのURLでも良ければ回答は多くなると考える。（松本）  　・誰が誰にとって評価しやすいのか、という視点についてはどのように考えたら良いのか。担当者レベルなのか承認者レベルなのかの違いで混乱が起こるのではないか。（安田）  　→元々の作りとしては担当者レベルでの視点だが、調査の際に回答者の属性を記入してもらい、属性による集計もできるように追加する。（五十部）  　・検証結果を見直しに活かすと思うが、表記・例示の仕方の改定、それとも項目自体の改定に反映するのか。良くない意見に関してどのように改善したらいいのか分からないと変えようがない。（谷）  　→備考にカッコ書きで「改善案」を回答いただくこととする。（五十部）  ・検証した方がどういう視点・基準で回答したのか、評価基準の指針になるのではないか。エクセレントの部分を皆さんの意見から出していくのも一つの手かと思う。（岡村）  　→回答項目が増えるが、良いと思う。依頼する前に委員で実際にやってみてはどうか。（高岡）  　・お盆休み明けに委員で回答、その後ブラッシュアップした上で8月末から9月初旬に調査依頼し9月末頃に回収することとする。エクセルの回答方法は回答者の負担が軽減できるように改善する。（五十部）  (2) 検証調査依頼先について  ・対象校は昨年度の調査に協力いただいた学校、グループ校をあげている。各校3章ずつ対応いただく。  (3) 調査依頼と回収方法  ・依頼書案は赤字の部分についてご意見をいただきたい。エクセルファイルのダウンロードはサイトを作成し“ダウンロードボタン”をクリックする。回収方法はメールで返送いただく形式としたい。これについてもご意見をいただきたい。  【意見等】  ・学校によって法人単位で管理している場合と学校単位で管理している場合があるので、宛先について法人担当校に送る場合と、各校に送る場合の2つのケースがある。混乱を防ぐためにも、依頼書は「会員校各位」ではなく学校名にし、担当する章を明確にしたほうが良い。（飯塚）  　→事務手続き的に考えると、法人担当宛てに別紙で各校の担当章を添付して封書で依頼してはどうか。（谷）  　→結構手間のかかるアンケートなので、所要時間を記載したほうが良い。（安田）  　→昨年は法人単位で依頼したが、今回は調査内容の形態が違うので、後日検討とする。（五十部）   1. 第三者評価機関への調査と学内監査・推進者育成プログラム調査（五十部）   (1) 第三者評価機関への実態調査項目について  ・対象機関は5機関、調査については新型コロナの感染状況に応じて調査方法を考えていきたい。  ・「第三者評価モデル」構築のための調査項目については、審査活動の概要については、審査の流れ、審査料金体系、評価基準について、申請に必要な書類等については、自己点検・評価表等の様式、エビデンスの整理方法、申請段階で提出を要請する情報の一覧について、書類審査については、実施体制、項目、評価結果について、現地審査については、現地審査の実施体制、現地審査の8項目について、また審査結果の報告等については、審査結果の形式、取り組み支援、審査認証後の流れについて伺う。  【意見等】  ・ヒアリング内容を見ると現地でヒアリングしなくてもいいのではと感じるがどうか。（山根）  　→質問項目を読んだだけでは伝えきれない部分があると思うので、現地でのヒアリングを考えている。（五十部）  　・第三者評価機関はそれぞれ強みを持っていると思うが、特色も聞きだせると良い。また、書類審査と現地審査について、自校では書類審査8割、現地審査で書類審査の内容の確認となっている。現地審査と書類審査の位置付けについても伺えればと考える。（安田）  　→概要についての項目で特色・審査方法の位置付けなどを追加したい。（五十部）  ・学内監査・推進者育成プログラム作成のための調査項目については、「監査員・推進者の育成」のための調査項目案として、（1）第三者評価に臨むにあたり、どのような活動を求めるかで、①組織・体制つくり、②実施活動・進め方、③メンバーの選任及び確保、④その他の研修プログラムについて、(2)内部監査推進者育成で、①内部監査推進者の要件、②内部監査推進者養成の流れ、③内部監査推進者に必要な能力、④それらを身に付けるための手段、(3)審査員の確保及び育成で、①審査員の要件、②審査員養成の流れ、③審査員に必要な能力、④上記を身に付けるための手段、⑤各階層別研修、⑥レベルアップ研修、⑦審査員認定基準をあげた。(2)内部監査推進者育成の内容がダイレクトにプログラム作成に繋がる内容と考える。(3) 審査員の確保及び育成はさらに進めた内容で、推進者から審査員への道を導けたらと考える。  ・調査対象機関のうち、TCE財団では「内部質保証人材養成プログラム」を持っている。実施にあたっては私立専門学校等評価研究機構、JAMOTECで運営しており、専門学校向けに育成を実施している。それ以外にQAPHE、リハビリテーション教育評価機構のプログラム・考え方を足しこむことができれば、さらに広く一般的で有効なプログラムができるのではないかと期待する。  【意見等】  ・自己点検・評価の推進者を内部監査推進者というのか。内部監査という言葉を使うと、他のイメージを持たせてしまうのではと感じる。（安田）  　→プログラムでは、「学内監査推進者」という表現をしている。第三者評価をしている学校に調査をするので、自己点検、第三者評価に対しての内部監査という意味を持っていただけると考える。（五十部・松田）  (2) 第三者評価機関への学内監査・推進者育成プログラム調査について  ・9月中旬より調査の協力依頼し、各機関3名程度担当を決めて9月下旬から10月にかけて調査を実施する予定。調査方法については可能であれば訪問調査が良いが、今後の状況を見て検討が必要。  【意見等】  ・調査対象機関が全て東京にあるので、新型コロナの感染状況によって予定時期が近くなったら検討したほうが良いと考える。（飯塚）  　→調査時期になったら、実際に伺うかオンラインで実施するか検討する。調査対象機関には依頼文を作成し依頼する。調査依頼担当は分担する。（五十部）  ・各調査グループの質問の意図が統一できるようにグループ分けをしてほしい。（高岡）   1. 次回のスケジュール（五十部）   ・次回は11月を予定。1ヶ月ほど前に日程調整を行う。 |
| 配布資料 | ・共通基盤整備事業\_運営委員会資料\_20210802  ・令和３年度共通基盤整備事業第1回運営委員会  ・学内監査・推進者育成プログラム作成のためのヒアリング  ・自己点検標準モデル検証アンケート協力依頼校リスト\_20210802  ・自己点検評価標準モデルの検証アンケート協力依頼書  ・第三者評価を実施している機関へのヒアリング調査について  ・自己点検・評価表モデル検証シート\_Yg20210730 |

以上